

おくすり Q&A

アトピー性皮膚炎に塗り薬の新薬ができました

Q. アトピー性皮膚炎の新薬はどのような薬ですか

A. アトピー性皮膚炎の新薬はJAK阻害剤という薬です。JAK阻害剤は、ヤヌスキナーゼ(JAK)という酵素を阻害することにより、免疫にかかわるサイトカインの働きを抑えます。

内服薬としてトファチニブ(ゼルヤンツ®錠)、バリシチニブ(オルミエント®錠)、ペフィシチニブ(スマイラブ®錠)、ウパダシチニブ(リンヴォック®錠)が発売されており、主に関節リウマチの薬として使われています。

アトピー性皮膚炎の病態にもサイトカインが関与しており、JAKなどのシグナル経路が活性化され炎症やかゆみを引き起こしています。2020年1月、JAK阻害剤であるデルゴシチニブ(コレクチム®軟膏)がアトピー性皮膚炎の薬として承認されました。

Q. デルゴシチニブ(コレクチム®軟膏)について教えてください

A. コレクチム®軟膏が承認されるまで、アトピー性皮膚炎の薬として承認されたJAK阻害剤はありませんでした。アトピー性皮膚炎の治療に使われているステロイド外用剤や免疫抑制外用剤とは異なる作用機序で効く新しい薬です。現在コレクチム®軟膏を使用できるのはアトピー性皮膚炎の成人ですが、2歳以上16歳未満の小児のアトピー性皮膚炎にも使えるように、低濃度の製剤の承認申請が行われています。承認されれば、小児の方もデルゴシチニブが使用できるようになります。

Q. デルゴシチニブ(コレクチム®軟膏)の使い方は?

A. コレクチム®軟膏は1日2回患部に塗布します。1回に塗る量は5g(チューブ1本)までです。ティッシュが皮膚に付く、または皮膚がテカる程度を目安に塗ってください。軟膏を、人差し指の先端から第一関節まで出した量が約0.5gです。この量を「1FTU」といいます。1FTUで、手のひら2枚分くらいの面積に塗ることができます。



「わたしの健康とくすり」第285号にはアトピー性皮膚炎の皮下注の新薬であるデュピルマブ(デュピクセント®皮下注)について掲載されています。ご覧になりたい方は、職員にお申し付けください。

執筆薬剤師 大木 楓奈



わたしの健康とくすり

第296号



撮影/加藤 哲教

今月の内容

- ・疾患シリーズ 血液疾患：先天性血栓性疾患 《連載・第3回目》
- ・ちょっとお耳を…… LH比とは何かご存知ですか？
- ・おくすりQ & A アトピー性皮膚炎に塗り薬の新薬ができました

2020年9月発行

発行者 八王子薬剤センター 茂木 徹
東京都八王子市館町1097 電話042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

疾患シリーズ

血液疾患：先天性血栓性疾患 《連載・第3回目》

今回は血液疾患シリーズの最終回として先天性血栓性疾患（血栓傾向）について解説します。

▶ 最近血栓症が増えている

近年の疫学調査で肺塞栓症や下肢静脈血栓症が急増しています。その危険因子として長時間の安静、肥満、脱水、悪性腫瘍、感染症などがあり、複数が関与する場合には要注意です。以前は長時間のフライト後に生じた下肢静脈血栓症であるエコノミークラス症候群が注目されていましたが、自動車・船舶などでもおこるので旅行者血栓症と呼ばれるようになりました。

▶ 先天性血栓性疾患とは

血液凝固阻止因子が先天的に欠乏することによっておこる病気です。日本では、プロテインC、プロテインS、アンチトロンビン等の欠乏症が多く、特に血栓症の家族歴がある方には積極的な検査が勧められます。一般的には20～40歳代で様々な部位に血栓症をおこしますが、適切に治療されれば後遺症は比較的軽度に留まります。

▶ 血栓症の症状

肺塞栓症では息切れ、胸痛、下肢静脈血栓症ではむくみ、疼痛、皮膚の色調変化などがみられます。これらの症状は先天性・後天性に違いはありませんが、血栓症に特異的な症状ではないので他の疾患との鑑別が重要です。幸い、臨床所見のスコアリングシステムや血液検査（D-ダイマー）、画像検査（超音波検査やCTなど）の精度が向上し、血栓症を疑うことができれば確実な診断ができるようになってきました。

▶ 血栓症の治療

約6年前に新たな抗凝固薬が登場し、以前汎用されていたワルファリンと同等の効果で出血の合併症が少ないことが示されました（リバーロキサバン、アピキサバン、エドキサバン等）。納豆・青汁や薬剤との相互作用も少なく、画一的な用量で管理できる利点もあります。但し、先天性血栓傾向の患者さんや高齢者では十分に検討されておらず、薬剤の選択は悩ましい問題です。当科でも患者さんの希望やリスクの程度に応じて個別に検討しているのが現状です。

▶ 血栓症にならないために

夏は血栓症の患者さんが増えた印象があり、私の外来でも今まではあまり見かけなかった20～30歳代の若年者の受診もありました。猛暑や新型コロナウイルス流行による外出自粛、在宅勤務の増加など様々な原因が思い浮かびます。血栓症の予防には適度な水分補給と下肢の運動、成人病等の適切なコントロールが必要ですので、できることを心掛けていただきたいと思います。



ちょっとお耳を……

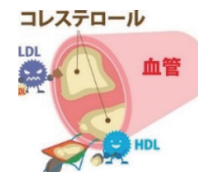
LH比とは何かご存知ですか？

突然ですが、検査値は正常値内なら安心だと思っていませんか？実は、悪玉コレステロールや善玉コレステロールが正常値内でも、動脈硬化の危険にさらされている場合があります。今回は、動脈硬化の指標として重要視されているLH比と生活習慣の改善方法についてお話しします。

【悪玉コレステロール・善玉コレステロール】

コレステロールには、悪玉コレステロールと善玉コレステロールがあります。

- 悪玉コレステロールは、余分なコレステロールを血管や末梢の組織に置いて行きます。動脈硬化を促すコレステロールで、LDLコレステロールと呼ばれます。
- 善玉コレステロールは、血管壁等に溜まったコレステロールを取り除き肝臓へ持ち帰ります。動脈硬化を防ぐコレステロールで、HDLコレステロールと呼ばれます。



【LH比とは？】

LH比とは、血管内の状態を把握する指標で、『LDLコレステロール値 ÷ HDLコレステロール値』で示されます。正常値は、1.5以下と定められていますが、高血圧や糖尿病の持病がある場合や心筋梗塞や狭心症等の病気を経験したことがある方は1.5以下、ほかに病気がない場合は2.0以下が望ましいとする考え方もあります。LH比は、数値が高くなるほど動脈硬化によって血管が狭くなり、心筋梗塞や脳梗塞を引き起こすリスクが高いとされています。例えば、LDLコレステロール値が135mg/dl（正常値：140mg/dl未満）、HDLコレステロール値が45mg/dl（正常値：40mg/dl以上）とします。どちらも正常値内に収まっていますが、LH比は135 ÷ 45 = 3となり、動脈硬化が進行した危険な状態である可能性があります。このケースでLH比を正常値の1.5以下にするためには、LDLコレステロールを下げ、HDLコレステロールを上げる必要があります。それぞれのバランスが大切になってきます。

LH比	血管内の状態
1.5以下	きれいな状態
2.0以上	動脈硬化の疑い
2.5以上	血栓の疑い 心筋梗塞のリスク大

【LH比のバランスを改善する生活習慣】

- 1 高脂肪食は避けましょう
 - ・脂肪分の多い肉類や乳製品等の食品は、LDLコレステロールを増やします。
- 2 LDLコレステロールを減らす食品を積極的に取りましょう
 - ・青魚（サバ等）…不飽和脂肪酸（EPA・DHA）はLDLコレステロールが作られるのを抑えます。
 - ・水溶性食物繊維（海藻等）、植物性タンパク質（大豆等）…LDLコレステロールを減らします。
 - ・緑黄色野菜…ビタミンCやEはLDLコレステロールの酸化を防ぎ、動脈硬化を防ぎます。
- 3 禁煙をしましょう
 - ・喫煙はLDLコレステロールを増加させます。
- 4 適度な有酸素運動を心がけましょう
 - ・有酸素運動は、HDLを増やす効果があります。
 - ・ウォーキングなら1日30分程度を週3日以上が目標です。



コレステロールは、細胞膜の形成やホルモンの維持等、生命維持に必要な役割も担っています。しかし、LH比を高値のまま放っておくと、心筋梗塞や脳梗塞等の生命にかかわる危険な病気になりかねません。健康な血管を維持するために日頃からご自身の血管内の状態を把握して、生活習慣を見直すきっかけにしましょう。